

日本史

解答範囲は、解答番号 から までです。

I 次の文章を読み、後の問い(問1～問12)に答えなさい。

応仁の乱ののち、みずからの力で領国(分国)をつくり上げ、独自の支配をおこなう地方権力が誕生した。これらは戦国大名と呼ばれている。戦国大名は、家臣団統制や領国支配のための政策を次々に打ち出した。なかには領国支配の基本法である分国法を制定するものもあった。

関東では、を機に、鎌倉公方が足利持氏の子成氏の古河公方との子政知の堀越公方とに分裂し、関東管領上杉氏も両家にわかれて争っていた。この混乱に乗じて15世紀末、北条早雲(伊勢宗瑞)は堀越公方を滅ぼしてを奪い、ついで相模に進出してを本拠とし、子の北条氏綱・孫の氏康の時には、北条氏は関東の大半を支配する大名となった。

中国地方では、守護大名として権勢を誇った大内氏が、16世紀半ばに重臣のに国を奪われ、さらに安芸の国人からおこった毛利元就がこれにかわり、山陰地方のと激しい戦闘を繰り返した。

近畿地方では、室町幕府における主導権をめぐって細川氏を中心とする内部の権力争いが続いており、また、九州では、島津氏や大友氏がとくに優勢であった。

戦国時代には、領国経済の振興を目指す大名の政策もあって、農村の市場や町が飛躍的に増加した。また大寺社だけでなく、地方の中小寺院の門前町も繁栄し、とくに浄土真宗(一向宗)の勢力の強い地域では、その寺院や道場を中心に寺内町が各地に建設された。

戦乱の中でも遠隔地商業は活発であり、港町や宿場町が繁栄した。これらの都市のなかには、富裕な商工業者たちが自治組織をつくって市政を運営し、平和で自由な都市をつくり上げるものもあり、堺や博多などがその代表であった。

問5 空欄 ・ にあてはまる語句の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号

- | | | | |
|--------|-------|--------|-------|
| ① ウ＝武蔵 | エ＝春日山 | ② ウ＝伊豆 | エ＝春日山 |
| ③ ウ＝武蔵 | エ＝鎌倉 | ④ ウ＝伊豆 | エ＝鎌倉 |
| ⑤ ウ＝武蔵 | エ＝小田原 | ⑥ ウ＝伊豆 | エ＝小田原 |

問6 下線部④に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号

X 大内氏は寧波の乱の後、日明貿易を事実上独占した。

Y 大内氏の城下町山口には、多くの文化人が集まった。

- | | | | |
|-------|-----|-------|-----|
| ① X＝正 | Y＝正 | ② X＝正 | Y＝誤 |
| ③ X＝誤 | Y＝正 | ④ X＝誤 | Y＝誤 |

問7 空欄 ・ にあてはまる語句の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号

- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| ① オ＝松永久秀 | カ＝長宗我部氏 | ② オ＝陶晴賢 | カ＝長宗我部氏 |
| ③ オ＝松永久秀 | カ＝尼子氏 | ④ オ＝陶晴賢 | カ＝尼子氏 |
| ⑤ オ＝松永久秀 | カ＝龍造寺氏 | ⑥ オ＝陶晴賢 | カ＝龍造寺氏 |

問8 下線部③に関して、戦国時代の近畿地方の出来事に関する記述として、不適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号

- 細川政元が、将軍を廃する事件をおこした。
- 細川氏は、家臣の三好長慶に実権を奪われた。
- 将軍足利義輝は、政変で殺害された。
- 近江の六角氏は、分国法『塵芥集』を制定した。

問1 下線部③に関する記述として、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号

- 細川勝元と山名持豊(宗全)が幕府の実権を握ろうとして対立した。
- 将軍家の家督をめぐって、足利義視と足利直義が争った。
- 管領家の斯波氏・京極氏でも、家督争いがおこった。
- この乱の前後から、バサラの風潮がはじまった。

問2 下線部⑤に関して、戦国大名がおこなった政策として、不適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号

- 指出検地をおこなった。
- 関所を廃止し、交通の便をはかった。
- 撰銭令を出して、中国銭の使用を禁じた。
- 各地で成長の著しかった地侍を家臣に組み入れていった。

問3 空欄 ・ にあてはまる語句の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号

- | | | | |
|----------|--------|----------|--------|
| ① ア＝享徳の乱 | イ＝足利義持 | ② ア＝永享の乱 | イ＝足利義持 |
| ③ ア＝享徳の乱 | イ＝足利義教 | ④ ア＝永享の乱 | イ＝足利義教 |
| ⑤ ア＝享徳の乱 | イ＝足利義政 | ⑥ ア＝永享の乱 | イ＝足利義政 |

問4 下線部③に関連して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号

X 関東管領上杉氏は、山内・扇谷にわかれていた。

Y 関東管領の上杉憲実は、足利学校を再興した。

- | | | | |
|-------|-----|-------|-----|
| ① X＝正 | Y＝正 | ② X＝正 | Y＝誤 |
| ③ X＝誤 | Y＝正 | ④ X＝誤 | Y＝誤 |

問9 下線部①に関連して、九州の戦国大名に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号

X 大友氏は、フランシスコ＝ザビエルを保護した。

Y 島津氏は、桂庵玄樹をまねいて儒学の講義をおこなわせた。

- | | | | |
|-------|-----|-------|-----|
| ① X＝正 | Y＝正 | ② X＝正 | Y＝誤 |
| ③ X＝誤 | Y＝正 | ④ X＝誤 | Y＝誤 |

問10 下線部③に関して、中世の門前町として、適切なものを次のなかから2つ選び、解答番号10の欄を使用して2つの番号をマークしなさい。

解答番号

- | | | |
|-------|------|---------|
| ① 長野 | ② 敦賀 | ③ 宇治・山田 |
| ④ 一乗谷 | ⑤ 坊津 | ⑥ 桑名 |

問11 下線部④に関連して、15～16世紀の浄土真宗(一向宗)に関する記述として、不適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号

- 蓮如は、平易な文章(御文)で念仏の教えを説いた。
- 加賀では、約100年にわたって門徒・国人による政治が続いた。
- 日親は、激しい宗論を戦わせながら、西日本に勢力をのびた。
- 越前の吉崎や河内の富田林が寺内町として知られる。

問12 下線部①に関する記述として、不適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号

- 堺は、もともと大輪田泊が発展して形成された。
- 堺は、ガスバル＝ヴィレラの書簡で紹介された。
- 博多では、年行司の合議によって市政が運営された。
- 博多は、日明貿易の根拠地として栄えた。

一般選抜入試(中期日程)

日本史(2月14日)

Ⅱ 次の文章を読み、後の問い(問1～問12)に答えなさい。

1787年、老中に就任した松平定信は、アの飢饉後の幕政を推進し、政治改革にふみきった。しかし、定信のきびしい儉約令や風俗統制によって社会の各層の不満が高まった。1793年に定信は老中を辞職し、その後イ期になると、幕政は11代將軍ウの側近たちで進められた。その頃から収益を目的として金銀貨の大量鑄造がおこなわれ、財政支出も増えた。一方、貨幣の大量発行によって景気が刺激され、富が庶民にももたらされた。人びとの生活が全体的に向上するなか、文化・イ期には、江戸を中心として庶民文化が展開した。

また、庶民の子弟の教育が寺子屋でおこなわれ、各地に私塾が設立された。こうした教育熱の高まりは、民間だけでなく幕府や諸藩でもみられ、諸藩では武士の子弟の教育が奨励された。

18世紀後半以降、幕藩体制の動揺が社会の各方面にあらわれると、社会変革を視野に入れた思想が次々と登場した。そのうち、国際関係に着目した論説として次の一節がある。

日本は海国なれば、渡海・運送・交易は、固より国君の天職最第一の国務なれば、万国へ船舶を遣りて、国用の要用たる産物、及び金銀銅を抜き取り日本へ入れ、エを厚くすべきは海国具足の仕方なり。(『経世秘策』)

この著者オのように、この頃、ロシアとの関係から蝦夷地の重要性を説く者があらわれた。一方、ロシアは、1792年および1804年に使節を日本に派遣して通商を求めた。幕府がこれを拒否したことを機に、両国間の緊張関係がしばらく続いた。ロシアとの関係が改善した後も、次々と来航する外国船への対応が、幕藩体制がゆらぐなか大きな課題となった。

問4 下線部㉔に関連して、江戸幕府の老中の辞職に関する記述として、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 16

- ① 田沼意次は、子の意知の暗殺をきっかけに権勢を失い、辞職した。
② 松平定信は、蛸社の獄や將軍との対立などをきっかけに、辞職した。
③ 水野忠邦は、上知令の実施を強行したことで批判を浴び、辞職した。
④ 安藤信正は、桜田門外の変をきっかけに、辞職した。

問5 空欄ウ・オにあてはまる語句の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 17

- ① ウ＝徳川家治 オ＝本多利明 ② ウ＝徳川家斉 オ＝本多利明
③ ウ＝徳川家治 オ＝林子平 ④ ウ＝徳川家斉 オ＝林子平
⑤ ウ＝徳川家治 オ＝近藤重藏 ⑥ ウ＝徳川家斉 オ＝近藤重藏

問6 下線部㉔に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 18

- X 鑄造された小判の重量は、江戸時代の小判のなかで最小だった。
Y 鑄造された小判の金の含有量は、江戸時代を通じて最小だった。
① X＝正 Y＝正 ② X＝正 Y＝誤
③ X＝誤 Y＝正 ④ X＝誤 Y＝誤

問1 下線部㉔の人物に関する記述として、不適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 13

- ① 三卿の一つ田安家の出身である。
② 8代將軍徳川吉宗の孫にあたる。
③ 松平家の養子となり、会津藩主となった。
④ 藩主として、領内の飢饉対策などで名をあげた。

問2 空欄ア・イにあてはまる語句の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 14

- ① ア＝享保 イ＝文政 ② ア＝享保 イ＝安政
③ ア＝天明 イ＝文政 ④ ア＝天明 イ＝安政
⑤ ア＝寛政 イ＝文政 ⑥ ア＝寛政 イ＝安政

問3 下線部㉔に関して、松平定信による改革に関する記述として、不適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 15

- ① 町々に町費節約を命じ、節約分の7割を積み立てさせた。
② 出版統制令を出して、政治批判などをきびしく取り締まった。
③ 飢饉に備えて、大名に1万石につき50石の米穀をたくわえさせた。
④ 小石川養生所を設け、無宿人を収容した。

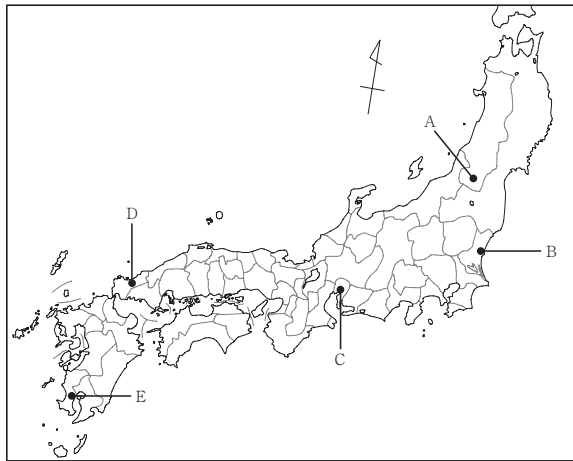
問7 下線部㉔に関して、19世紀前半の文化に関する記述として、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 19

- ① 式亭三馬や十返舎一九が、読本で人気を得た。
② 葛飾北斎は、『富嶽三十六景』や『名所江戸百景』などの風景画を描いた。
③ 常設の芝居小屋がにぎわい、大田南畝ら脚本作者が活躍した。
④ 人情本の代表的作家である為永春水は、天保の改革で処罰された。

問8 下線部㉔に関して、江戸時代の藩校の名称と所在地の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 20



- ① 日新館－A ② 弘道館－B ③ 明倫館－C
④ 明德館－D ⑤ 時習館－E

問9 下線部⑥に関して、このような思想を説いた人物とその著作の組み合わせとして、不適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

- ① 渡辺崋山－『慎機論』
- ② 海保青陵－『稽古談』
- ③ 広瀬淡窓－『北槎閑略』
- ④ 佐藤信淵－『経済要録』

問10 空欄「エ」にあてはまる語句として、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

- ① 国力
- ② 防禦
- ③ 公論
- ④ 仁政
- ⑤ 租税

問11 下線部⑩に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

- X レザノフは、ラ（ッ）クスマンがもち帰った入港許可証をたずさえて長崎に来航した。
- Y ラ（ッ）クスマン来航の際、大黒屋光太夫ら日本人漂流民が送還された。
- ① X＝正 Y＝正
- ② X＝正 Y＝誤
- ③ X＝誤 Y＝正
- ④ X＝誤 Y＝誤

問12 下線部①に関する記述として、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

- ① 択捉島に上陸したゴロー（ウ）ニンを日本の警備兵が捕らえ、監禁した。
- ② 蝦夷地を直轄地として以降、幕府はアイヌに対する同化政策をとりはじめた。
- ③ フェートン号事件の解決をきっかけに、ロシアとの関係は改善した。
- ④ ロシアとの関係が安定すると、1821年、幕府は蝦夷地を東北諸藩に還付した。

問1 空欄「ア」～「ウ」にあてはまる語句の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

- ① ア＝貨幣法 イ＝銀貨 ウ＝金貨
- ② ア＝貨幣法 イ＝金貨 ウ＝銭貨
- ③ ア＝貨幣法 イ＝銭貨 ウ＝銀貨
- ④ ア＝新貨条例 イ＝銀貨 ウ＝銭貨
- ⑤ ア＝新貨条例 イ＝金貨 ウ＝銀貨
- ⑥ ア＝新貨条例 イ＝銭貨 ウ＝金貨

問2 空欄「エ」にあてはまる語句として、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

- ① 品川弥二郎
- ② 松方正義
- ③ 山県有朋
- ④ 黒田清隆
- ⑤ 森有礼

問3 下線部③に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

- X 日本銀行は、貿易金融の中心的役割を担った。
- Y これを機に1883年に国立銀行条例が改正され、国立銀行は銀行券を発行できなくなった。
- ① X＝正 Y＝正
- ② X＝正 Y＝誤
- ③ X＝誤 Y＝正
- ④ X＝誤 Y＝誤

Ⅲ 次の(1)・(2)の文章を読み、後の問い（問1～問16）に答えなさい。

(1) 明治政府は近代国家を樹立するため、さまざまな制度の整備を進めた。

まず、通貨制度についてみると、江戸時代からの藩札を含む通貨に加えて、明治維新後に発行した太政官札・民部省札なども発行されて、統一を欠いていた。そこで、通貨を統一するため、1871年に「ア」を公布し、1円「イ」を基準とした十進法をとる硬貨を発行した。ただし、実際には、開港場での貿易の決済には「ウ」が用いられ、国内では主に紙幣が用いられた。

続いて、政府は金融制度の整備に着手した。まず、渋沢栄一が中心となって、1872年に国立銀行条例を制定し、銀行券を発行する権限をもつ国立銀行の制度が創設された。その後、1882年には、大藏卿「エ」の建議により、中央銀行として日本銀行が創設された。さらに、政府は1897年に新たに法律を制定して金本位制をあらためて定め、貨幣価値の安定と貿易の振興などの政策を進めた。

次に、法制度の整備をみると、政府は1882年に伊藤博文らをヨーロッパに派遣して憲法や議会制度などを調査させた。帰国後、伊藤は政府顧問の「オ」の助言を得て、「カ」・伊東巳代治らとともに憲法草案の起草を進め、1889年に大日本帝国憲法が公布された。

その後、1890年には、民法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法が公布され、1880年に憲法に先行して公布されていた刑法をあわせて、法治国家としての体制が整備された。ただし、「キ」が起草した民法については民法典論争がおこって施行延期となり、大幅に修正された民法が1896年と1898年に公布され、1898年に施行された。

問4 下線部⑤に関する記述として、不適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

- ① 日清戦争の勝利によって得た賠償金の一部が準備金とされた。
- ② 金本位制は1917年に停止され、再び金本位制に戻ることはなかった。
- ③ 金本位制に先立って、1885年から銀本位制による兌換券が発行された。
- ④ 金本位制は、欧米諸国にならって採用された。

問5 空欄「オ」・「キ」にあてはまる語句の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

- ① オ＝ベルツ キ＝ボアソナード
- ② オ＝ベルツ キ＝ナウマン
- ③ オ＝ベルツ キ＝フェノロサ
- ④ オ＝ロエスレル キ＝ボアソナード
- ⑤ オ＝ロエスレル キ＝ナウマン
- ⑥ オ＝ロエスレル キ＝フェノロサ

問6 空欄「カ」にあてはまる語句として、適切なものを次のなかから2つ選び、解答番号30の欄を使用して2つの番号をマークしなさい。

- ① 井上毅
- ② 井上馨
- ③ 大山巖
- ④ 志賀重昂
- ⑤ 加藤弘之
- ⑥ 金子堅太郎

問7 下線部⑦に関する記述として、不適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

- ① 立法・行政・司法の三権分立が規定された。
- ② 天皇は、統治権のすべてを握る総攬者とされた。
- ③ 皇位継承など、皇室にかかわることが定められた。
- ④ 国民は、法律の範囲内で言論・出版・集会・結社の自由が認められた。

一般選抜入試(中期日程)

日本史(2月14日)

問8 下線部④に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 32

X 帝国大学教授穂積八束は、「民法出ア、忠孝亡ブ」と題する論文を発表した。

Y 論争的となった1890年に公布された民法は、ドイツ法をモデルとしていた。

- ① X = 正 Y = 正
- ② X = 正 Y = 誤
- ③ X = 誤 Y = 正
- ④ X = 誤 Y = 誤

問9 下線部⑤に関して、次の史料は1898年に施行された民法の条文の抜粋です。史料の空欄 A ～ C にあてはまる語句の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 33

第七百四十九条 家族ハ A ノ意ニ反シテ其 B ヲ定ムルコトヲ得ス

第七百五十条 家族カ婚姻又ハ C ヲ爲スニハ A ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス (官報)

- ① A = 家父長 B = 職 業 C = 養子縁組
- ② A = 戸 主 B = 職 業 C = 離 婚
- ③ A = 家父長 B = 職 業 C = 就 業
- ④ A = 戸 主 B = 居 所 C = 就 業
- ⑤ A = 家父長 B = 居 所 C = 離 婚
- ⑥ A = 戸 主 B = 居 所 C = 養子縁組

(2) 明治政府は近代産業を育成するために殖産興業政策を進め、さまざまな官営事業をおこなった。その例として、繊維、鉄道、炭鉱、造船といった事業がある。

民営の事業においても、渋沢栄一らが設立した大阪紡績会社が1883年に操業を開始した。そして、日清戦争前後には、繊維産業を中心として、機械技術を用いた近代的な工場での生産が本格化する時代を迎えた。

鉄道事業には1880年代から民間資本が進出し、1881年に日本鉄道会社が設立された。これ以降、官営の鉄道だけでなく、会社設立ブームがおこり、官民による鉄道の敷設が進んだ。

官営事業は、軍事工場と鉄道を除いて、1884年頃から民間に売却された。三井・三菱などの政商は、私下げを受けて財閥へと成長した。

このように、官営と民営の事業によって、明治時代のわが国に近代産業が発展していった。

問10 下線部①に関連して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 34

X 明治時代には、すべての官営事業は工部省が主導した。
Y 工部省の主権により、内国勸業博覧会が開催された。

- ① X = 正 Y = 正
- ② X = 正 Y = 誤
- ③ X = 誤 Y = 正
- ④ X = 誤 Y = 誤

問11 下線部⑥に関する記述として、不適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 35

- ① 官営の製鉄所として、日本製鋼所が設立された。
- ② 官営の銀山として、生野銀山があった。
- ③ 官営の炭鉱として、三池炭鉱があった。
- ④ 官営の造船所として、長崎造船所があった。

問12 下線部①に関連して、明治時代における紡績業に関する記述として、不適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 36

- ① 原料綿花は、ほぼすべて国産のものが利用された。
- ② 豊田佐吉が国産の力織機を考案し、1900年代には農村の中小工場にまで普及した。
- ③ 大阪紡績会社は、最新式紡績機械の導入と昼夜交替制で大きな利益をあげた。
- ④ 1897年には、綿糸の輸出量が輸入量を上まわった。

問13 下線部①に関する記述として、不適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 37

- ① 明治時代には、製糸業は国産の繭を加工した生糸の輸出で外貨を獲得できる重要な産業であった。
- ② 1872年に開業した富岡製糸場は、フランス人技師の指導により、工女の養成をはかった。
- ③ 1909年に、わが国は世界最大の生糸輸出国になった。
- ④ 日露戦争後には、イギリス向けを中心に生糸の輸出がさらにのびた。

問14 下線部①に関連する記述として、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 38

- ① 日本鉄道会社は、平民の出資によって設立された。
- ② 日本鉄道会社は、東海道線を全通させた。
- ③ 政府は鉄道国有法を公布し、主要幹線の民営鉄道会社を国有化した。
- ④ 国有による鉄道事業は、1970年代の田中角栄内閣の時代に民営化された。

問15 下線部⑤に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組み合わせとして、適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 39

X 三井は、江戸時代にはじめて呉服店・両替商が起源である。
Y 三菱は、岩崎弥太郎が経営した海運会社から発達した。

- ① X = 正 Y = 正
- ② X = 正 Y = 誤
- ③ X = 誤 Y = 正
- ④ X = 誤 Y = 誤

問16 下線部①に関連して、以下の出来事（a～c）を、年代順に古いものから並べるとどうなりますか。適切なものを次のなかから1つ選びなさい。

解答番号 40

- a 日本郵船会社が成立した。
- b 電信線が北海道から長崎まで架設された。
- c 器械製糸の生産量が座繰製糸の生産量を上まわった。
- ① a→b→c
- ② a→c→b
- ③ b→a→c
- ④ b→c→a
- ⑤ c→b→a
- ⑥ c→a→b